



TOTO 水環境基金

2022年度
助成先団体活動報告

2022年4月～2023年3月
(第15・16・17回)

TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせません。そこで、TOTOグループは2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に継続して取り組む団体への支援を続けています。企業による一時的な物資や資金の支援だけでなく、団体を支援することで持続的な発展を目指しています。



想いを同じくするパートナーを探して

TOTO水環境基金は、応募団体の方と面談をし、「水環境にかかわる地域課題を地域の方々と共に解決したい」という想いを応募団体へ伝えます。そのうえで、応募団体の活動の詳細やどのような想いを持って活動されているのかを確認し、「地域に根ざした活動であるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、想いを同じくする団体を探して活動をスタートさせます。

地域に根差した継続的な活動を支援

世界には、水不足や劣悪な衛生環境により、数多くの人が命を落としている国や地域があり、環境保全、貧困、教育、ジェンダー平等の実現などの様々な課題を抱えています。これらの課題解決には、一時的な水まわり器具などの物資や資金などの提供だけでなく、維持や管理の仕組みを根付かせるために、継続的に現地を支援し、衛生的な生活環境の重要性を伝えていく活動が欠かせません。また日本国内においては、地域の水とくらしの身近な課題解決に取り組む市民団体の活動として、水とくらしの関係を見直し、再生するのに重要な役割を担っています。TOTO水環境基金は、これらの活動を行う団体を支援することで、持続的な発展を目指しています。

地域の一員として共に課題解決に取り組む

TOTOグループでは、地球環境に貢献するボランティア活動を「グリーンボランティア」と呼び、TOTO水環境基金助成先団体の活動にもグループ社員がボランティアとして参加することを奨励しています。コロナ禍においても感染状況を考慮しながら、社員が活動に参加してきました。助成期間終了後も、情報交換やボランティア参加などを通じ、助成先団体をはじめとする地域の皆様との交流は続いており、年々活動の輪が広がっています。また、助成先団体のネットワークづくりを目的として、「助成先団体交流会」を毎年開催しています。助成活動に関わるTOTOグループ員も参加し、助成先団体による事例発表懇親会などで交流を図ります。こうした活動は、社員の社会貢献活動に対する意識の醸成と参画のきっかけになっています。

みんなの想いを反映して

助成金額は、「お客様」に購入いただいた節水商品から算出される節水効果、「株主様」の株主優待制度による寄付の賛同、「TOTOグループ社員」によるボランティア活動の参加人数を基にそれぞれ金額換算し、さらにTOTOがマッチングすることで決定しています。ステークホルダーの皆様が環境貢献への関わりが増すほど、「TOTO水環境基金」の助成金が増えていく仕組みです。

【SDGs・持続可能な17の開発目標】

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



各団体の紹介ページ(P7~P25)において、プロジェクト名の下に水環境基金の助成活動で取り組んでいるSDGs開発目標のマークを記載しています

- 1 貧困をなくそう:あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 2 飢餓をゼロに:飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- 3 すべての人に健康と福祉を:あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- 4 質の高い教育をみんなに:すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 5 ジェンダー平等を実現しよう:ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 6 安全な水とトイレを世界中に:すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに:すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 8 働きがいも経済成長も:すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう:強靱なインフラを整備し、包摂的で

- 10 人や国の不平等をなくそう:国内および国家間の格差を是正する
- 11 住み続けられるまちづくりを:都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする
- 12 つくる責任 つかう責任:持続可能な消費と生産パターンを確保する
- 13 気候変動に具体的な対策を:気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 14 海の豊かさを守ろう:海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 15 陸の豊かさを守ろう:陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 16 平和と公正をすべての人に:持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう:持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

2022年度 TOTOによる活動支援



助成金 総額

2,630万円

助成によって団体が実施した活動の成果



助成先団体 **19**団体



活動回数 **494**回



活動参加人数 **18,889**人

うちTOTOグループ参加人数 **322**人

国内		海外
植樹本数 2,930 本		植樹本数 2,750 本
保全整備した面積 136,800 ㎡		保全整備した面積 15,000,000 ㎡
有害生物の駆除・除去 14,804 匹・ 1,102 kg		—
環境教育参加人数 6,123 人		環境教育参加人数 2,732 人
水環境や景観保全のために収集したゴミの量 0.7 t		水環境や景観保全のために収集したゴミの量 18.1 t
—		設備設置(トイレ、手洗い、給水タンクなど) 224 基
—		受益者数 20,382 人
—		衛生教育参加人数 16,305 人

2022年度までの累計(第7回以降)



活動回数 **5,675**回



参加人数 **212,668**人

第17回(1年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	NPO法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク	あいの里でトンボを指標に豊かな水環境をつくろう!	北海道札幌市	7
2	庄内自然博物館構想推進協議会	市民参加型の湿地資源の活用と循環による 持続的な湿地再生手法の検討	山形県鶴岡市	8
3	小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会	ヤマグチサンショウウオの飼育・観察による自然環境教育	山口県下関市	9
4	認定NPO法人 改革プロジェクト	子どもの意欲を育む環境教育プログラムの展開	福岡県宗像市	10
5	一般社団法人 ふくおかFUN	「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成プロジェクト	福岡県福岡市	11
6	公益社団法人 アジア協会アジア友の会	住民主体のごみ管理 クリーンでグリーンな地域とブルーな水環境のために	フィリピン ソルソンゴン州	12
7	公益財団法人 国際開発支援財団	山岳少数民族の衛生施設「マザーズ・スペース」の設置	ベトナム コントゥム省	13
8	認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構	わたしたちが伝える! 「トイレと健康」	エチオピア 南部諸民族州 ガモ・ゴファ地方	14
9	NPO法人 コンフフロントワールド	ウガンダでのトイレ建設、貯水タンク建設、石鹸生産	ウガンダ ブタンバラ県	15
10	一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク共和国・紛争避難施設の水環境整備活動	モザンビーク カーボデルガド州・ナンブラ州	16
11	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン	エスワティニ王国マンジニ県における水・衛生プロジェクト	エスワティニ マンジニ県	17

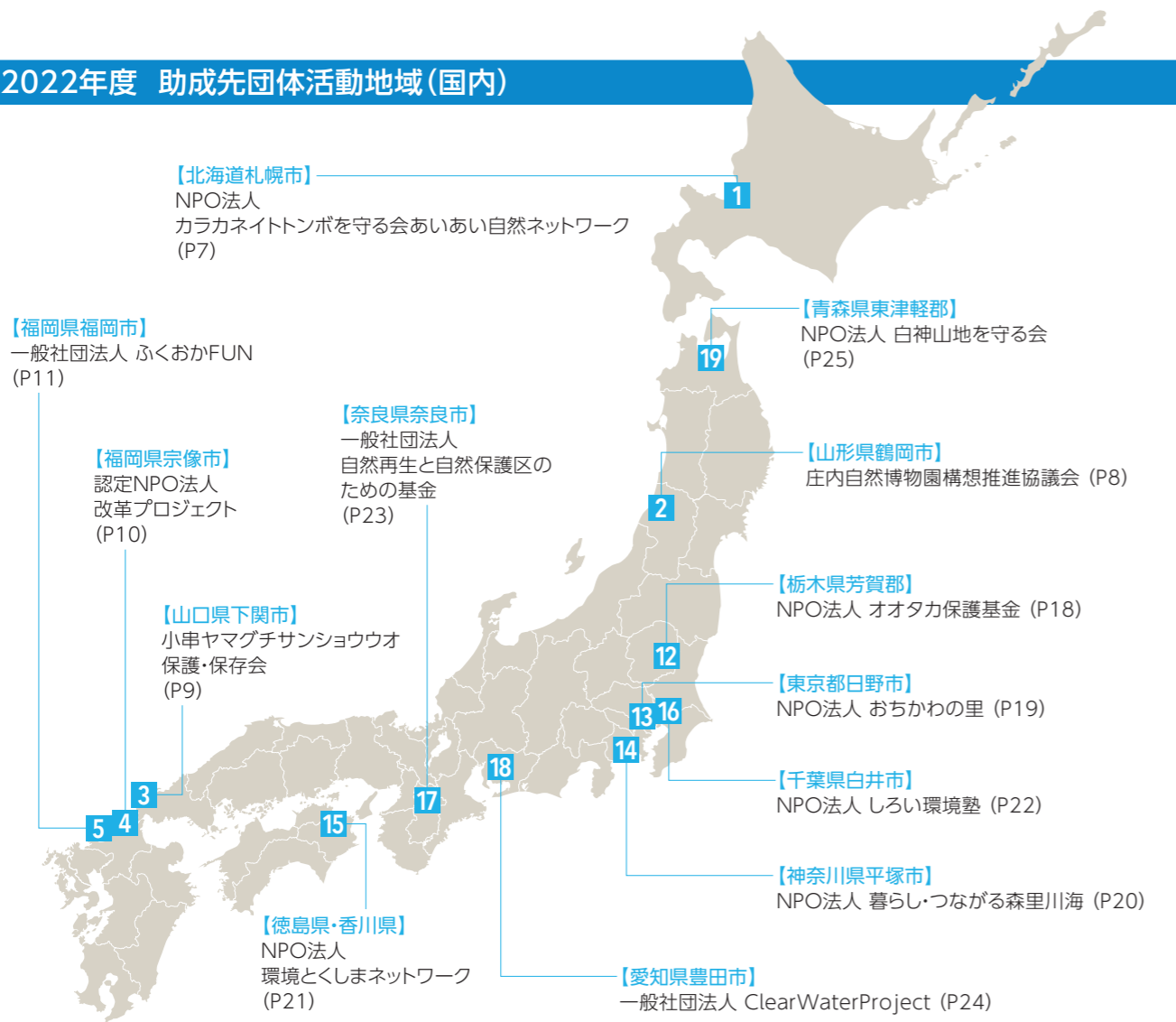
第16回(2年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
12	NPO法人 オオタカ保護基金	サシバの里ハスの花咲く水辺復活プロジェクト	栃木県芳賀郡	18
13	NPO法人 おちかわの里	落川交流センター・森と水の再生事業	東京都日野市	19
14	NPO法人 暮らし・つながる森里川海	湘南いきもの楽校プロジェクト 「子どもが元気、生きものが元気、地域が元気」	神奈川県平塚市	20
15	NPO法人 環境とくしまネットワーク	せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」再生化プロジェクト	徳島県・香川県	21

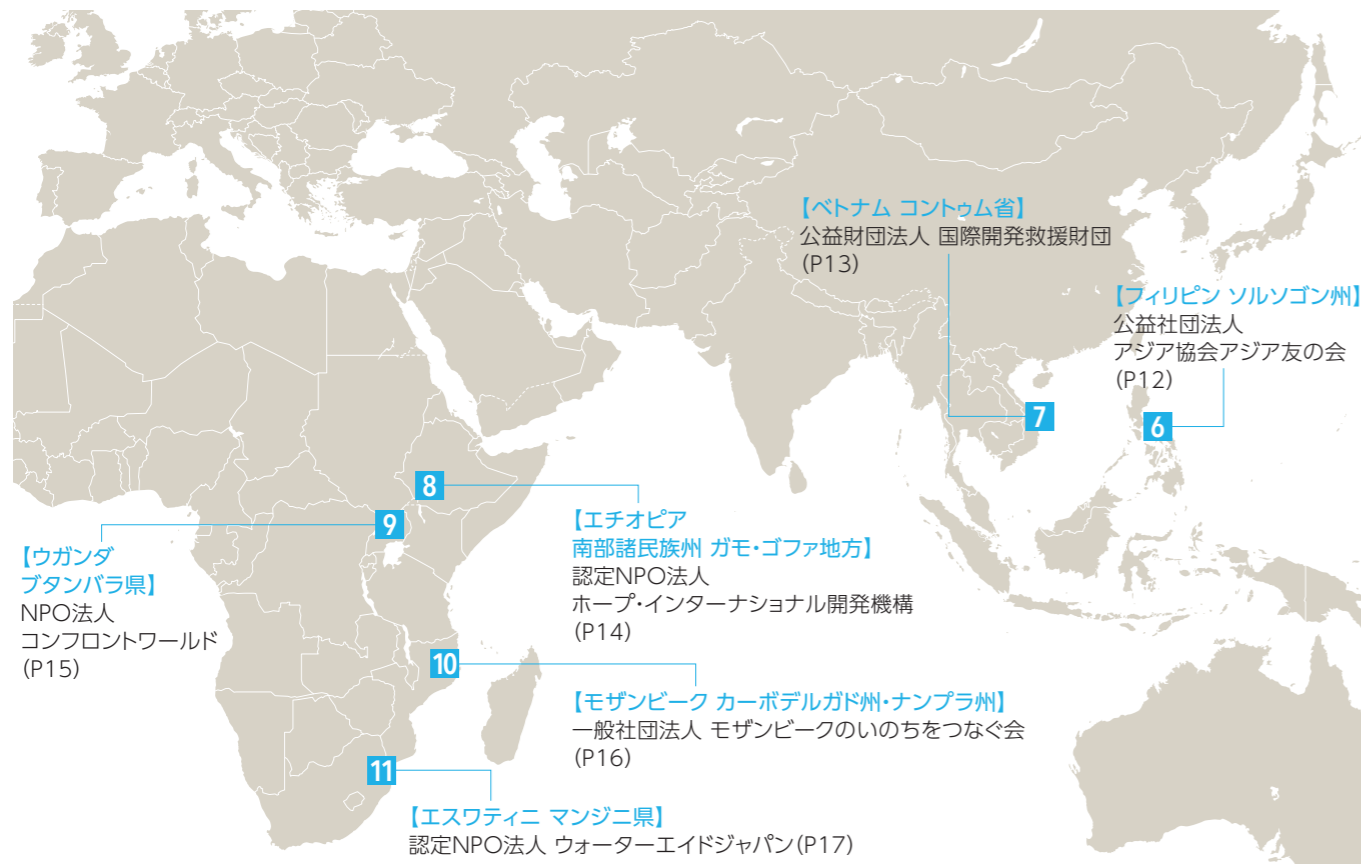
第15回(3年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
16	NPO法人 しろい環境塾	美しい下賀沼の景観復活! 2022	千葉県白井市	22
17	一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金	学びと実践のための 谷まると棚田の自然再生プロジェクト	奈良県奈良市	23
18	一般社団法人 ClearWaterProject	デジタル生き物図鑑制作プロジェクト	愛知県豊田市	24
19	NPO法人 白神山地を守る会	陸奥湾の高温暖害から環境を守る植林・普及活動	青森県東津軽郡	25

2022年度 助成先団体活動地域(国内)



2022年度 助成先団体活動地域(海外)



1 NPO法人 カラカネイトンボを守る会あいあい自然ネットワーク

【代表者】 綿路 昌史

篠路福移湿原(しのろふくいしづげん)は札幌市に残るわずかな湿原です。この湿原にはカラカネイトンボをはじめ貴重な生き物たちが生息していますが、近隣業者による埋め立てで消えようとしています。湿原に残る自然を子どもたちの故郷として残したいと強く思った地元の市民と当時の札幌拓北高校理科研究部顧問(現理事長)により1997年に設立しました。札幌市北区あいの里地区を中心に、篠路福移湿原保全・保護活動をはじめ身近な自然を守る活動を行っています。



勉強会「と〜きんぐ」の様子



あいの里でトンボを指標に豊かな水環境をつくろう!

- ◎活動地域 | 北海道札幌市北区あいの里
- ◎助成期間 | 1年目



あいの里・篠路福移地区の水環境を継続して豊かにするために、地域住民の方と共同で池沼の浚渫作業や湿原植物の植栽、ヤナギや外来性草本などの除去を行っていきます。この活動を通じて、湿原性生物の魅力や湿原環境の維持および再生の難しさを地域住民に伝えていきます。また、寒冷な湿地が生息域で、札幌市内では篠路福移湿原にしかない、準絶滅危惧種に指定されているカラカネイトンボ(体長2.5cm)をはじめとする湿原の動植物の保全を目指し、活動を行っていきます。また、大学生をリーダーとして据え、高校生と共にトンボを指標とした環境調査を行うことで、生物や自然環境に興味を持ち、具体的な活動を実践できる人材の育成へとつなげていきます。

実施結果

- ①トンボの池は湿原性のトンボが生息していることが分かった。トンボの池そのものが当会で保全活動を行っている篠路福移湿原に隣接していることもあり、今後の環境整備活動によっては湿原の再生につながる可能性もあると考えられる。トンネウス沼は21年度に機械を用いて大規模な浚渫を行ったが、その影響もあり、マコモ等の抽水植物を利用するトンボが少ないように思われる。
- ②トンボの池とトンネウス沼では、当初計画の2倍以上の湿原性植物の株数を植栽することができた。地域住民を巻き込んだイベント実施では、あいの里在住の方に参加していただくことができ、また新たな地域住民の参加を呼び込むこともできた(5名)。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	10回	▶ 14回
活動参加人数	245人	▶ 180人
植樹本数	700本	▶ 1,700本
保全整備した面積	600㎡	▶ 500㎡
有害生物の駆除・除去	200kg	▶ 150kg
環境教育参加人数(のべ人数)	30人	▶ 28人



子ども大人と一緒に作業!



トンボの池での植栽

活動に関わった方の声

- ①若い世代の人たちが活躍していることに感動した。
- ②過酷な作業だったが、終わってから振り返ってみるととても楽しかった。
- ③人間と自然の関わりについて、考えることができた。

2 庄内自然博物館構想推進協議会

〔代表者〕 櫻井 修治

庄内自然博物館構想推進協議会は、都沢湿地や高館山、大山上池・下池を自然学習のフィールドとして活動しています。子どもたちをはじめ市民みんなが自然との一体感を享受できるように、「自然と触れ合う機会を創出しよう」という願いから、2011年に設立しました。また、市民がいつでも気軽に学習し、豊かな自然環境や生態系が維持され、安全安心な活動ができるよう、「鶴岡市自然学習交流館ほとりあ」を開設し、さまざまな取り組みを行っています。



マコモで作成したリース

市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生手法の検討

◎活動地域 | 山形県鶴岡市大山地域(都沢湿地、大山上池)
◎助成期間 | 1年目



都沢湿地は近年乾燥が進み、大型の草であるヨシやマコモ(イネ科の多年草)が繁茂することで陸地化が起り、湿地性の動植物の生息・生育環境が失われています。マコモを始めとする湿地動植物を積極的に活用することで、湿地の開放水面を創出していきます。これまでの環境保全の視点に加え、新たに湿地資源の活用及び循環を、食と動物飼育の視点から活動を実施することで、市民参加の門戸を広げ、多様な世代が多様な目的で「楽しく」活動に参加できるようにします。従来以上に多様なステークホルダーを加えて、新しい持続可能な湿地再生活動について取り組んでいきます。

実施結果

湿地再生の課題である「陸地化」の解決策として、湿地資源であるマコモを活用したクラフト、食、家畜、普及啓発部などの多様な事業を開催した。その結果、多様な世代が活動に参画し、刈り取り期間および刈り取り面積が増え、当初(0.25ha)よりも多い0.4haの範囲を刈り取ることができた。一方で、刈り取り後のマコモの粉末加工を団体自身で行ったことで、その労働時間が増え、マコモ粉末の商品化(検討まで実施)や食イベントなど一部の事業が実施できなかった。2023年度以降は、マコモの粉末加工・袋詰めまでを地域の企業にご協力いただき、団体では刈り取り事業と粉末の活用事業に力を入れていきたいと思う。

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	25回 ▶	30回
活動参加人数	1,020人 ▶	1,220人
ゴミ回収量	— ▶	120kg
保全整備した面積	0.25㎡ ▶	0.4㎡
有害生物の駆除・除去	10,000匹 ▶	14,702匹 アメリカザリガニ
	20kg ▶	100kg マコモ刈り取り量
環境教育参加人数(のべ人数)	1,020人 ▶	1,520人



マコモの刈り取り



完成したヤギ小屋

🔊 活動に関わった方の声

《小学校3年生》
ヤギを近くで見るとのは初めてだった。ヤギが湿地の草ならなんでも食べると思っていたけど、好きな草、あまり好きではない草があって、びっくりした。そして、ヤギのうんちを利用して大豆を育てることも知りました。

《サポーター》
マコモの活用やヤギによる湿地管理の事業に参加して、本来、自然は人がまもっていくのではなくて、利用することで守られていくことを初めて実感しました。ほとりあを中心に利用する頻度や幅を調整しながら、これからも楽しみながら活動に参加したいと思います。

3 小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会

〔代表者〕 新村 義昭

2016年2月に豊浦町小串の堂道川上流で準絶滅危惧種カスミサンショウウオの卵塊を確認し、棲息地の保護・保全活動を目的として有志による「小串カスミサンショウウオ保護・保存会」を結成しました。2019年に本種が山口県南西部と大分県の一部に棲息する「ヤマグチサンショウウオ」であることが判明し、新種登録、環境省・山口県指定絶滅危惧Ⅱ類に指定されたことを受けて現団体名に改名し、現在まで活動を行っています。



ヤマグチサンショウウオ

ヤマグチサンショウウオの飼育・観察による自然環境教育

◎活動地域 | 山口県下関市豊浦町小串
◎助成期間 | 1年目



絶滅危惧Ⅱ類に指定されているヤマグチサンショウウオはその生態の多くが未解明となっています。このプロジェクトではヤマグチサンショウウオの生態研究を教材として、近隣小学校において、孵化・変態・成長過程の給餌・観察を行い、さらに生態系回復を目指した絶滅確認地への放流までを自然環境教育として実践しています。生息地の水環境の保全と同時に、この活動を通じて生徒たちには、命の大切さや希少種が生息する故郷を誇りに持ってもらうこと、豊かな自然環境を守ろうとする心を育むことや、努力と工夫の大切さを学んでもらうことを目指しています。

実施結果

【2022年】
2月 採卵 観察開始(7日)
3月 孵化後 給餌開始
5月 変態後 上陸開始 給餌・飼育・観察
6月 冷凍庫・保冷剤・冷蔵庫 導入
7月 児童各自が飼育箱に移し、個人的な飼育・観察開始(16日)
8月 夏季休暇中 冷蔵庫(別荘)で避暑生活
10月 ビオトープ設置(産卵地)(22日)
【2023年】
2月 採卵 小学校関連開始(9日)
3月 ビオトープ設置場所 産卵状況の確認(14日)

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	8回 ▶	8回
活動参加人数	30人 ▶	30人
環境教育参加人数(のべ人数)	100人以上 ▶	100人以上
その他 定量可能な成果	1箇所 ▶	1箇所
ビオトープ造成		



ビオトープづくり

🔊 活動に関わった方の声

《参加者:女性》
ヤマグチサンショウウオの生態について学んだあとに、餌あげ体験を行いました。小さな体で一生涯命にアカムシを食べている様子を見て、地域の自然環境と共に「ヤマサン」を守っていこうという気持ちになりました。

《参加者:男性》
自分たちが作ったビオトープで希少生物が産卵するかもしれない考えるとロマンを感じました。この活動に参加したことで、生物多様性を守ることの大切さに気付かされました。

《参加者:男性》
地方にある小さな小学校が拠点となって運営しているが、卒業生も協力しながら活動していることに感銘を受けた。子供たちがその地域特有の種を絶やさないようにしたいという思いが伝わってきた。



避暑地(冷蔵庫)への引っ越し準備

子どもたちが裸足で走れる砂浜を取り戻したいとの思いから、初期メンバー3人で2010年に団体を設立しました。スポーツという手段を用いることによって、防犯と環境分野における課題の解決を目的とした活動を進めています。活動を通じて、個々人のウェルビーイングが高まり、心豊かに暮らせる社会の実現を目指します。



ごみを拾う子どもたち



子どもの意欲を育む環境教育プログラムの展開

◎活動地域 | 福岡県宗像市
◎助成期間 | 1年目

これまで「まちの環境づくり」として、社会人を主たる対象としてビーチクリーン活動を中心に実施してきました。環境意識の向上のためには従来とは別の視点の活動も必要との思いから、子どもを対象としたプロジェクトを策定。子ども時代の「心が動く」経験が環境改善の強い動機づけになると考え、海との強い結びつきを感じる経験を通じて未来を担う子どもたちが環境意欲を育めるように、2つのプログラムを実施します。1つ目は研究プログラムとして海辺、海上、海中それぞれの視点から海を観察し、夏の自由研究の題材としてもらうことを狙います。2つ目のプログラムではゲーム感覚でのゴミ拾いという非日常体験を親子で経験することで、参加後に環境への意識が家庭内で高まることを目指します。

実施結果

- ①夏の課外授業「海の自由研究プログラム」
 - ・参加人数 6人
 - ・ボランティアの参加 7人
- ②「ADVENTURE Lite2022」
 - ・参加人数 14組39人
 - ・回収ゴミ 200kg
 - ・参加者の満足度 平均4以上(5段階中)
 - ・行動意識の変化
(環境意識が高まったと感じた割合)100%/8組回答
 - ・学生ボランティアの参加 15人

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	2回	2回
活動参加人数	110人	45人
ゴミ回収量	200kg	200kg
環境教育参加人数(のべ人数)	67人	67人



港での見学



漁船体験

活動に関わった方の声

- ・子どもがゴミを拾うことから環境に対して興味を持つことができた。
- ・海岸ゴミの量と種類の多さに驚きました。イベント参加後は、道端に落ちているゴミが気になるようになり拾ってゴミ箱に捨てるようになりました。

福岡市に面する博多湾は、多様な生物の生育空間としての機能を持つ一方で、河川からの生活排水の流入による汚染等で、生態系を脅かす課題を抱えています。当団体は、博多湾の魅力や課題、自然の不思議・素晴らしさを、ダイバーの目線から多くの方に伝えることで水環境を守っていくことを目的に2014年に設立しました。「自然伝承」を理念に掲げ、人々がふるさとの海を誇りに思い、豊かな自然が次の世代に伝承されていくことを目指しています。



アマモ花枝採取活動参加者



「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成プロジェクト

◎活動地域 | 福岡県 博多湾及びその近海
◎助成期間 | 1年目

海洋生物の作用により大気中から海中へ吸収された二酸化炭素由来の炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、海草や海藻が繁茂する藻場はこの吸収源として脱炭素社会に繋がる重要な機能を有していると注目されています。博多湾の藻場は減少傾向にあり、そこで形成されている生物多様性もまた失われつつあります。このプロジェクトではアマモの再生・造成活動による藻場の回復を通じて、浅海域の磯焼けや地球温暖化など様々な問題を、行政や漁業関係者、研究者とともに解決することを目指します。また、福岡県内の小中高生、専門学生に向けた環境学習を実施し、環境意識の向上や行動変容を促すことで、豊かな海づくりに繋がっていきます。

実施結果

- 【2022年度事業実施内容】
 - ・福岡市行政、公民館、小中学校、民間企業等と共働したアマモ場づくり活動及び環境教育を実施した。
 - ・小戸公園(福岡市西区)での定点調査を行った。
- 【2022年度成果指数】
 - ・イベント開催回数:5回
 - ・アマモ場調査回数:25回
 - ・製作したアマモ苗:1,000本
 - ・使用したアマモ種子:9,000粒
 - ・小戸公園(福岡市西区)、福浜海岸(福岡市中央区)において合計約1haのアマモ場を造成した。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	6回	10回
活動参加人数	74人	276人
植樹本数	1,000本	1,000本
環境教育参加人数(のべ人数)	209人	295人
海へ投入したアマモ種子数	4,000粒	9,000粒



漁村センターでのオリエンテーション



アマモ花枝採取

活動に関わった方の声

- 《アマモ花枝採取参加者》
 - ・綺麗な海や環境を守るためにできることからやっていきたいと思った。
 - ・自分ができることは何か、改めて考える良い機会となった。
- 《FUNクリーンアップデー参加者》
 - ・アマモのことはテレビで見て知ってはいたが、実際に種に触れ、投げることができて嬉しかった。
 - ・海の生物を守り、アマモを増やすことによるメリットを感じることができた。このことを、より多くのひとに知ってもらいたいと思った。
 - ・アマモが増える活動が広まると地球温暖化対策になるので、今後も継続して活動を行ってほしい。

6 公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〔代表者〕 篠原 勝弘

アジア協会アジア友の会は、「水」の供給から始まり、現地からの要請を受けるかたちで、「環境保全」「教育支援」「生活自立支援」に関する活動を行ってきました。地域の課題解決のために、4分野の事業を中心に必要な事業を組み合わせ、地域の自立を目指しています。また、日本国内においても、アジアや支援活動に関心を持ってもらうための啓発・広報活動を実施しているほか、全国の会員がアジア支援や活動の輪をひろげるためのチャリティイベント等を行っています。



堆肥化トレーニングの様子

住民主体のごみ管理 クリーンでグリーンな地域とブルーな水環境のために

◎活動地域 | フィリピン ソルソゴン州マトノグ町
◎助成期間 | 1年目



フィリピンの農村では、多くの地域で、やむを得ず海や川などの水辺にゴミが捨てられており、本プロジェクトの活動地域であるフィリピンのマトノグ町でも大きな課題となっています。マトノグ町では、これまでマングローブ林の再生活動が行われてきましたが、住居地域から流出するプラスチックゴミが沿岸のマングローブ若木の生育の妨げとなっています。結果として、不衛生な生活環境や水環境をもたらすだけでなく、住民の生計にも影響を与えつつあり、また海洋プラスチック汚染の原因ともなっています。今回のプロジェクトでは、現地住民の主體的な取り組みを促しながら、地域や家庭でのごみ処理状況の改善のために、有機性ごみの堆肥化と緑化の推進、リサイクルの推進、住民に対する適切なごみ処理意識の醸成を行います。

実施結果

1. クリーンでグリーンな地域の中心づくり(カマチレス村堆肥化及び育苗センター1基を建設し、有機性ごみ堆肥化と緑化の推進をおこなった)
2. 耐久性のあるプラスチック回収リサイクル用ごみ箱の設置(ポイ捨てしない習慣の養成と分別とリサイクルを推進した)
3. クリーンでグリーンなご近所さんコンテスト(住民間での情報交換と相互啓発)
4. 国際クリーンアップイベント(3ヶ国6地域で開催。地域の環境を改善するとともに、地球規模の海洋プラスチック汚染に連帯して取り組んだ)
5. 情報の普及とネットワーキング(センターを拠点にパンフレット配布やオンライン投稿を通じて、住民への啓発・教育と行政との連携関係づくり)

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	60回 ▶	169回
活動参加人数	1,490人 ▶	5,882人
ゴミ回収量	2,600kg ▶	18,100kg
植樹本数	600本 ▶	2,750本 アボカド、ピリナッツ、マロンガイ等
保全整備した面積	5,000,000㎡ ▶	15,000,000㎡
環境教育参加人数(のべ人数)	250人 ▶	2,732人
「堆肥化及び育苗センター」設置	1基・1箇所 ▶	1基・1箇所
受益者数(実人数)	500人 ▶	1,527人
衛生教育参加人数(のべ人数)	240人 ▶	440人



砂を掘り起こしてごみを回収する高校生



青年リーダーが子ども達にごみの分別を指導

活動に関わった方の声

《村人》
忙しい日々の中では、問題を感じながらも地域の環境のために働くことは難しいと感じていましたが、十分な準備と活動に必要な資材や資料があることで、自分でも色んな形で貢献できることがわかり、とても嬉しく思っています。

7 公益財団法人 国際開発救援財団

〔代表者〕 飯島 延浩

国際開発救援財団は、世界中の子どもたちが健やかに育つことができる社会をつくるため、日本国内の様々な企業、団体、そして多くの個人と一緒に国際協力を推進しています。そのために、世界中の人々が貧困から脱して、地域が自立的に発展していくことができるように、様々な分野で現地に根差した支援を行っています。また、日本を含むアジアの国々で自然災害に見舞われた人々の支援に取り組んでいます。



衛生改善の普及を図る研修

山岳少数民族の衛生施設「マザーズ・スペース」の設置

◎活動地域 | ベトナム コントゥム省内(トゥモロン郡、コンブロン郡)
◎助成期間 | 1年目



ベトナム国内において、最も開発の進んでいない地域の一つである中部高原地域のコントゥム省では、自宅から離れた川や井戸で洗濯をしたり、付近の茂みなどで用便を済ませたりしているため、感染症にかかる危険性は高く、乳幼児の高い死亡率の要因の一つになっています。このプロジェクトでは、トイレ、洗濯等ができる住民手作りの多用途施設「マザーズ・スペース」を省内2郡で設置し、家庭および地域内の衛生環境の改善を図るとともに、衛生行動を定着させていきます。

実施結果

前年度に引き続き、今年度(2022年度)の活動もCOVID-19の影響を受けたこともあり、多少の活動遅延も見られたが、最終的に予定していた以上に地域住民のイニシアティブが発揮され、予定していた2郡200世帯に対し衛生施設「マザーズ・スペース」を設置することができた。また前年度の対象世帯が、2022年度の対象世帯に対し、その有効性や使い方、改善・工夫の仕方等を助言する等の場面も多く見られた。対象地域の特に貧困層を中心とした世帯がそれぞれの世帯にあった材料を使った手作りの衛生施設が次々と完成していく様子に驚き、当該地域の行政官らは様々なワークショップや会議等で当該活動やその成果を紹介しはじめた。

〈定量成果〉

	計画値	結果
活動参加人数	2,000人 ▶	2,000人
衛生施設「マザーズ・スペース」設置	200基 ▶	200基
受益者数(実人数)	800人 ▶	800人
衛生教育参加人数(のべ人数)	1,950人 ▶	2,000人

活動に関わった方の声

《コントゥム省保健局行政官》
今回対象となった地域では、今までに何十年もトイレを設置・普及する活動はありましたが、それらが定着することは大変難しく、プロジェクトが完了すると同時にその拡がりや衛生施設を普及させることは定着しませんでした。しかし、この「マザーズ・スペース」の活動は、今までと違い、お母さんたちの「スペース」を提供したという点で非常に評価できます。トイレという物理的なものだけではなく、人々に「スペース」を提供するという発想に多くの人々が積極的に参加し、拡がりをもたらすきっかけになったと思います。

《設置した村人》
完成する前からこの衛生施設を使うことが楽しみで仕方ありませんでした。今までは近隣の人々と共用でトイレを使っていたので、管理も難しく、衛生を保つこともなかなかできませんでした。今では自分の家に設置されたので、自分で毎日のように掃除をし、棚をつけたり、よりよい生活のために工夫して管理しています。家族もとても明るくなりました!



マザーズスペース設置作業



マザーズスペースの活用光景

ホープ・インターナショナル開発機構は、「住む場所に関係なく、すべての人々が生きていくために必要で基本的な権利が保障され、それぞれが持つ能力を十分に発揮できる機会が与えられるべきだ」という信念のもと、活動を行っています。貧困に苦しみながら支援が届いていない人々が自立していくための技術・知識を身に付けられるプロジェクトや、身近にあるものを有効活用することで、経済的に自立したコミュニティが作れるような開発活動に取り組んでいます。



衛生啓発ポスター作成の様子



わたしたちが伝える! 「トイレと健康」



◎活動地域 | エチオピア連邦民主共和国・南部諸民族州ガモ・ゴファ地方オイダ地区
◎助成期間 | 1年目



多数の少数民族で構成されるエチオピアの南部の州では、田舎に居住している人々に支援が届きにくい状態になっています。このような地域の小学校の児童たちは、足場が不安定で不衛生なトイレを利用しています。このプロジェクトでは、保護者や教師、住民たちの作業協力を得て、学校用トイレと手洗い場の設置に取り組めます。また、教師に衛生教育研修を行うとともに、児童へのトイレの管理や手洗いを含めた衛生教育を実施していきます。また、2021年度の活動でトイレを建設した小学校では、児童が中心となって「トイレ利用」の啓発活動を実施し、屋外排泄を無くしていきます。

実施結果

カレ・マロ小学校では、昨年建設された学校トイレの壁に石鹸や手洗いの啓発用ペイントがなされた。WaSHクラブメンバーが衛生啓発活動及びトイレや校内を清掃し、児童たちのトイレの利用が定着している。また、WaSHクラブに対して、啓発ポスター作成ワークショップを実施した。TOTO社員様がポスター選考を行い、事業地と日本をつなぐこともできた。またヨング小学校児童がカレ・マロ小学校を訪問し、衛生活動の相互学習を行って、児童同士の交流を行った。しかしながら、ヨング小学校のトイレ建設遅延のため(長雨による道路や橋の崩壊など)、カレ・マロ小学校児童がヨング小学校を訪問することはできなかった。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	17回 ▶	16回
活動参加人数	479人 ▶	3,604人
学校トイレ設置	2基 ▶	2基
手洗い場設置	1箇所 ▶	1箇所
受益者数(実人数)	210人 ▶	210人
衛生教育参加人数(のべ人数)	25人 ▶	25人



トイレ清掃のデモンストレーション



手洗いのデモンストレーション

🔊 活動に関わった方の声

《カレ・マロ小学校の代表生徒 メルカムネッシュ・メシャジャさん(高学年)》
ウバ・ヤンバラ郡からはるばるWaSHクラブの生徒の皆さんが訪ねてきてくれてとても嬉しいです。私たちがここでしているように、自らの衛生に気を使うことや、トイレの清掃を含めた保健衛生活動を、ウバ・ヤンバラ郡でもしっかり実践してもらえたらいいなと思います。トイレを清潔に保つことはとても重要です。今日は、私たちがいつも水を使って清掃していることも皆さんに伝えました。

《ウバ・ヤンバラ郡の顧問教師 アステル・アリさん》
今日は手洗いや新しいトイレについてたくさん学ぶことができました。子どもたちにとっては全てのことが初めての体験でした。学校に戻ったら他の先生たちとも情報をシェアしたいと思います。カレ・マロ小学校に負けずに学校トイレをきれいに使うつもりです。

《カレ・マロ小学校校長先生 アラマヨ・アルメディさん》
実は以前ガラディダ郡の小学校との交流会をしたことがあります。でも今回のようなWaSHクラブとしては初めてであり、子どもたちにとっては良い体験でした。水なしでは衛生環境を向上させることはできないので、他の学校も安全な水の供給やトイレ建設がぜひ実現できたらと思います。

コンフロントワールドは、「不条理の無い世界の実現=生活と権利が保障され、誰もが自分で未来を決められる社会の実現」を目的に、日本・アフリカで活動する国際協力NGOです。「紛争・貧困などによって困難な状況にある人々の自律を後押しする」「情報と選択肢を届け、人々の社会貢献を後押しする」の2つをミッションに、学生・社会人スタッフが力を合わせ、学校建設や衛生施設の整備を行っています。



建設した貯水タンクの前で



ウガンダでのトイレ建設、貯水タンク建設、石鹸生産



◎活動地域 | ウガンダ共和国ブタンバラ県
◎助成期間 | 1年目



ウガンダ共和国の農村部ブタンバラ県では、生活に必要な水を汲むために、片道2時間かける必要があります。また、手洗いに必要な石鹸や手洗い装置を手に入れることが困難になっています。コンフロントワールドでは、現地のNGOと協力し、トイレ建設、貯水タンク・浄水フィルター建設、石鹸生産等を行い、水へのアクセスを改善させます。また、現地コミュニティへの衛生指導を行うことで意識改革にも取り組めます。

実施結果

・家庭用トイレ建設	:16棟
・学校への貯水タンク建設	:1基
・浄水フィルター建設	:2個
・現地住民への簡易手洗い装置と石鹸を提供	:400世帯
・石鹸の生産 液体石鹸	:1,100L
固形石鹸	:750個

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	12回 ▶	12回
活動参加人数	115人 ▶	115人
トイレ設置	20基 ▶	16基
貯水タンク設置	1基 ▶	1基
手洗い装置設置	180箇所 ▶	165箇所
受益者数(実人数)	9,404人 ▶	14,270人
衛生教育参加人数(のべ人数)	9,000人 ▶	13,750人

🔊 活動に関わった方の声

《パートナーNGO(JEDOVIC)スタッフ》
ブタンバラ県では、子供が水を汲みにいくことによって、学校に行く時間がありません。また、家庭ではトイレがなくHIVが蔓延しているため、衛生的な環境が必要となっています。JEDOVICメンバーは全員ブタンバラのことが好きでこの地をよくしたいと思っています。プロジェクトの進捗は良好ですが、もっとファンを増やして支援活動を拡大したいです。

《ブタンバラ県住民》
コンフロントワールドとJEDOVICの活動にとっても感謝しており、困難な状況下の人たちの支援を頑張っているのに応援したいです。トイレの建設について、これまでのトイレはドアがなく、プライバシーがありませんでした。また、バナナリーフで作られているためとても脆く、子供が穴に落ちたりすることもありました。新しいトイレは屋根やドアがあり、とても助かっています。



石鹸の生産



衛生指導

世界最貧国のひとつであるモザンビーク共和国では、人口の大半が貧困状態にあり、多くの解決困難な課題を抱えています。モザンビークのいのちをつなぐ会は、そこに生きる人々の生命の尊厳向上に貢献するため、住民一人ひとりが生き抜くために必要な「知識と知恵」を手に入れ、自らの力で解決できるよう支援しています。スラム地区での教育施設の整備・運営、開発の遅れている農村地区での水道インフラの整備や衛生教育の実施、伝統文化をルーツとするアーティストの活動支援など、生活の質を改善する活動を展開しています。



プロジェクトで設置した給水設備

モザンビーク共和国・紛争避難施設の水環境整備活動

◎活動地域 | モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバ及びナンプラ州ナンプラ
◎助成期間 | 1年目



モザンビークのいのちをつなぐ会では、国内の紛争によって避難民が急増していることから、ペンバ避難民の家とナンプラ寺子屋を建設しました。両施設には水設備がなく、避難民が衛生的な生活を送れていません。今回の活動では、ペンバ避難民の家に水道を敷設、またナンプラ寺子屋に井戸と貯水タンクを設置することで安全な水のアクセスを可能とします。

実施結果

- ペンバ避難民の家:水道管敷設
 - ①敷地内への水道管の敷設:1か所
 - ②給水・排水設備の整備 :1か所(建屋のセメント塗を含む)
 - <追加事項>
深井戸を手掘りで40m掘削し、外壁まで配水管を敷設。路地から安全な水を使用できるようにした。
- ナンプラ寺小屋:深井戸掘削、貯水タンク敷設
手掘りで掘削したが岩盤が固く断念。垂直電気法で地質調査をした後、機械掘削を実施したが水が出なかった。代替手段として、雨季にのみ水が出る近隣の浅井戸の修理を行った。



井戸設置工事



掘削機を使用したボーリング

《定量成果》

	計画値	結果
活動参加人数	52人	62人
井戸、水道設置	2基	3基
受益者数(実人数)	1,380人	3,015人

活動に関わった方の声

《機械式井戸掘り会社》

ナンプラは岩盤が硬い地域なので、寺子屋のように地質調査を実施した上で掘削しても、水が出ないケースはこれまでもある。行政による水道インフラの整備が早期に行なわれることを期待したい。

《避難民の家エリア住民》

きれいな水が使えるようになってとてもうれしい。

《ペンバ寺子屋エリア住民》

水も、食べ物も、病院も、薬も、サポートしてくれて、助かる。

清潔な水、衛生的なトイレ、正しい衛生習慣。健康で尊厳ある暮らしに欠かせないこの3つを届けることで、ウォーターエイドは世界でもっとも貧困で、社会的に取り残されがちな人びとの暮らしの改善を図っています。水・衛生分野の専門性を活かし、現在では、世界34か国に拠点を置き、アジア、アフリカ、中南米など計26か国で水・衛生プロジェクトを実施しています。



(プロジェクト実施前)不衛生な水を使う住民

エスワティニ王国マンジニ県における水・衛生プロジェクト

◎活動地域 | エスワティニ王国 マンジニ県ルドゼラズ郡ロジサ村
◎助成期間 | 1年目



南部アフリカの小国エスワティニの農村部では、給水施設の維持管理が適切に実施されていないことに加えて気候変動の影響もあり、人口の3分の2が清潔な水を得ることができません。このプロジェクトでは、ルドゼラズ郡ロジサ村において、現地に適した給水施設を設置、維持管理の仕組みを構築するほか、参加型衛生トレーニングを実施することで人々が健康な生活を送れるようにすることを目指します。

実施結果

ロジサ村の全住民305人ならびに近隣の村に住む約255人が、持続的に清潔な水を利用できるようになること、またロジサ村の全46世帯が自分たちでトイレを設置・使用することを目指し、①水管理委員会の立ち上げ・トレーニング、②太陽光利用の給水システムの設置、③給水施設のメンテナンス・水使用料金徴収を担当する民間事業者の選定・トレーニング、④住民を対象とした参加型衛生ワークショップを実施した。当初計画では、本プロジェクトで設置する給水システムを利用可能になる近隣の村の住民数を300人と見込んでいたが、給水システムの設計内容の精査、他の給水システムとの兼ね合いを検討した結果、その人数は255人となった。また、住民を対象とした参加型衛生ワークショップも、当初計画では305人を対象としていたが、これはロジサ村の全住民をカウントしており、実際は各家庭から平均2名、計90名の参加となった。

《定量成果》

	計画値	結果
「太陽光利用給水システム」設置	1基	1基
受益者数(実人数)	605人	560人
衛生教育参加人数(のべ人数)	305人	90人



パイプ網施設・給水システム工事

活動に関わった方の声

《住民男性》(Tosh Dlaminiさん)

これまで私たちは、山(水源)からくんできた安全でない水を飲んでいましたが、水が足りず、コミュニティの反対側(北)にはほとんど届いていないため、水をめぐる争いが起きていました。また、くんだ水をそのまま飲まなければならない、飲む前に浄水される施設はどこにもありませんでした。また、水を得られる人を増やすための貯水槽もありませんでした。

《住民女性》(Tsakasile Dlaminiさん)

ウォーターエイドの支援により、きれいな水を飲み、病気の蔓延を緩和することができることを嬉しく思っています。また、家庭菜園を持つことができるようになり、私たちの生活は一変するでしょう。



各世帯の近くに設置された水汲み場

オオタカ保護基金は、那須野ヶ原において、オオタカの密猟監視を中心とした保護活動を目的に、1989年に設立されました。オオタカをはじめとするワシ・タカ類の調査研究や生息環境の保全活動を通じて、環境保全型社会の構築を推進しています。また、自然の中での遊びを通じ、自然と共にある暮らしを学べる「サシバの里自然学校」を運営するなど、幅広い活動を展開しています。



観察会での集合写真

サシバの里ハスの花咲く水辺復活プロジェクト

◎活動地域 | 栃木県芳賀郡市貝町
◎助成期間 | 2年目



タカの仲間であるサシバは、水田などで狩りを行い、小動物や昆虫類を食べることから、自然界の食物連鎖の頂点に位置しています。そのため、その生息環境を守ることは、地域の特徴的な自然や健全な生態系を保護することにつながります。このプロジェクトでは、耕作放棄された里山の田んぼにハスを栽培することで、水辺・湿地として再生しています。これにより、絶滅危惧種の両生類や水生昆虫の生息場所、サシバの餌場を確保するとともに、レンコンなどの生産活動につなげています。

実施結果

- ①2021年より2か所のハス植栽谷津田を管理しており、今年度は、10a(1,000平米)の管理を行うことができました。
- ②自然観察会:3回実施、76名参加
- ③生物調査 :6回実施、アカハライモリなどの希少生物を記録した。
- ④地域住民の方と意見交換を行った結果、活動への理解、興味・関心が高まっている。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	10回	18回
活動参加人数	87人	113人

活動に関わった方の声

《観察会参加者》
いろいろな生きものが観察できて楽しかった。たくさんの生きものがいて驚いた。ハスがきれいだった。

《地域の方》
地域の環境保全や地域づくりに協力してもらって、助かっている。



観察会で生きものを探す



生物調査(アカハライモリ)

おちかわの里は、老後住みやすい町、ワーキング世代にとっては週末のんびり過ごせる町、子育てしやすい町、子どもがのびのび育つ町、そして地域で多世代の交流がますますさかんな町づくりに寄与することを目的に2020年に設立されました。「落川交流センター」を拠点に、地元自治会と複数の市民活動団体が協働で地域交流を促進するよう、さまざまな活動を展開しています。



森と水の再生講座(夏)

落川交流センター・森と水の再生事業

◎活動地域 | 東京都日野市落川
◎助成期間 | 2年目



「落川交流センター」の雑木林は、市民への開放により土が踏み固められ、若木が育ちにくくなったり、農家の肥やし用に落ち葉が運び出されて腐葉土がなくなったりしたことで、数年前から突然の立ち枯れや倒木が目につくようになっていました。このプロジェクトでは、市民とともに、ワークショップによる土壌づくりなどを通じ、地中の水と空気の循環を取り戻し、森を再生させる取り組みを行っています。また、子供たちも参加できる企画を行い、子供自身も未来の環境を育てる意識を持てるようにしていきます。

実施結果

昨年2回実施した「森と水の再生講座」を経て、土が固くなっていた地面にやわらかな下草が生え、けやきやくぬぎの実生が芽吹く土地になってきました。7月と12月には、公園内だけでなく、近くを流れる川と大地の下の水脈のつながりを学び、公園周囲の藪の手入れをするなどした結果、公園内の草原に湧き水が湧きだしました。湧き水が流れる方向に沿って水路を作り、窪地まで水を導いたところ、1か月後には自然な小川のように周囲に水辺の草が生え、窪地にたまった水はあふれることなく、地下に浸透していています。12月に湧きだした水は、現在もコンコンと湧き続けています。大地の中の水が動き出しました。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	3回	3回
活動参加人数	170人	183人
保全整備した面積	10,000㎡	11,000㎡
田んぼ周辺で発見した生き物の種類数	43種	51種

活動に関わった方の声

《中央区から参加された女性》
水が湧くなんて、奇跡みたいなことが、ほんとうに目の前で起こったのが信じられないです。この泉がどう変化していくのか、気になります。

《近所に住む90代女性》
この公園に入ってきたときの景色が変わって感動しています。こんなに落ち葉が敷き詰められた美しい公園だったとは!



田んぼの周辺での生き物調査



溝を切り、穴を掘り、炭や落ち葉を撒く

自然の遊び場「馬入水辺の楽校」を活動拠点に、地域の自然環境の保護・保全活動、川の自然と触れ合える場づくり、子どもたちを対象にした環境学習活動の実践に取り組んでいます。当団体は2001年4月に設立。運営体制を強化し、運動の輪を地域へ広げようと、2017年5月にNPO法人に生まれ変わりました。ウナギの棲む川づくり運動や生き物の王国づくりなど、人と生き物が共存したまちづくり運動に取り組んでいます。



ミニとんぼ池作り

湘南いきもの楽校プロジェクト「子どもが元気、生き物の元気、地域が元気」

◎活動地域 | 神奈川県平塚市
◎助成期間 | 2年目



相模川下流域は、都市化の進展により、護岸工事や河川敷のグラウンド化、水質の汚濁が進み、川の自然と触れ合える場所がほとんどありません。加えて、テレビゲームの普及や身の回りの遊び場の消失などにより、子どもたちの自然離れも進んでいます。こうしたことから「子どもが元気、生き物元気、地域が元気」を合言葉に、年間50回余の環境学習プログラムを実践しています。目標は「馬入水辺の楽校」のフィールドミュージアム化。活動を長期にわたって運営できるよう、生態系の整備に取り組んでいます。

実施結果

- フィールドミュージアム化
 - (1)馬入水辺の楽校運営協議会を開催し、土地所有者の国土交通省、管理者の平塚市の合意を得る。
 - (2)生きもの係隊による草刈り、竹林整備、トトロの迷路づくりなどのエコアップ活動の実施。
 - (3)生物多様性の保全として
 - ①カヤネズミの生息地保全のため、除草などによるオギ原の復元。
 - ②ウナギの棲む川づくり運動の、石倉カゴ設置とモニタリング実施。
 - ③生きもの広場づくりとしてエコスタックの設置。
- 環境学習活動
 会員主導の取り組みになるよう、暮らしの質を高める取り組み「ワークショップ湘南スロー」を展開し草木染などを楽しんだ。SDGs推進のイベント「湘南ピクニック土手のSDGs」を開催し来場者は1,300人を超えた。上記の取り組みにより新規運営委員が2名誕生した。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	31回 ▶	56回
活動参加人数	560人 ▶	2,980人
保全整備した面積	90,000㎡ ▶	90,000㎡ 〈推定〉
環境教育参加人数(のべ人数)	560人 ▶	2,980人



上下流交流会



ナイトオウ

活動に関わった方の声

《参加者:I君》
今日は楽しいことが3つありました。一つ目は、竹を切りました。切る時はゆびを少し切っちゃったけど、切るときは力を入れなければ切れないことがわかりました。二つ目は、竹でテントを作りました。ひもをむすぶのは大変だったけど、自分で作るテントの中はサイコーでした!三つ目は、友だちとかくれんぼと鬼ごっこをしたことです。1回目のかくれんぼは最後まで見つけれませんでした。次は、ゴマダラチョウの幼虫を自分で見つけたいです。

《参加者:H君》
空には鳥が飛んでいて、足元には色々な植物が、落ち葉をめくれば幼虫がいて、草むらをはけば虫がとび、水辺を見れば魚がはねてる。馬入水辺の楽校は生き物の楽園です。そんな水辺の楽校が、ぼくは大好きです。こんな楽しい環境が、ぼくが大人になっても残ればいいなと思います。

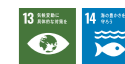
環境とくしまネットワークは、広く徳島県民全てに対し、自然と社会の共存のあり方を創造し、自然共生型社会づくりに貢献する活動を行い、地球上の環境と生態系の保全、消費者保護に寄与することを目的に2008年に設立されました。これまでに培ってきた環境や消費者、省エネルギー問題に対する幅広い知識や関連の資格を活かし、環境保護や森林保全、省エネ推進、消費者保護、家づくり支援など、さまざまな活動を推進しています。



徳島県立川島高校での環境出前講師活動

せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」再生化プロジェクト

◎活動地域 | 徳島県全域・香川県東部地区
◎助成期間 | 2年目



近年、海洋中のマイクロプラスチックが、生態系に及ぼす影響が懸念されている中、鳴門海岸に打ち上げられる空のペットボトルが目立ちます。この活動では、海岸の漂着ゴミ問題に一層関心を持ち、地域一体となった取り組みを行うことを目指し、市民参加型の清掃活動、環境学習ワークショップなどを実施しています。2022年は瀬戸内に面する9府県の海洋ゴミ活動組織と連携し、瀬戸内海洋プラごみ削減のためのシンポジウムや研修会を開催し全国へ活動を発信します。

実施結果

2022年度の本プロジェクトでは、瀬戸内海に面する10地域のうち、43団体へアプローチし、そのうち7地区の団体への訪問打合せを実施しました。コロナ感染の関係から山口・大分は急遽フォーラムに参加できなかったり、当初予定していた開催地にも変更が生じましたが、地域行政の協力を得て、当団体がある徳島県鳴門市で会場を確保し開催することができました。今回、多くの瀬戸内海の地域活動団体へ訪問し、清掃活動をしている海岸や瀬戸内海エリアの東西南北端の岬・半島など、2つの水道を渡りました。あらためて瀬戸内を再確認でき、海洋プラスチックによる環境汚染に対する活動の今後の課題も見えてきました。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	8回 ▶	12回
活動参加人数	115人 ▶	240人
ゴミ回収量	- ▶	201kg
環境教育参加人数(のべ人数)	120人 ▶	274人
地域活動連携団体数	10 ▶	23

活動に関わった方の声

《愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻 環境建設工学コース 片岡智哉 准教授》
今回のフォーラムにお招きいただき、ありがとうございました。瀬戸内のNPO団体が一堂に会して取り組みを共有することで、互いの活動にフィードバックできる有意義な四国では唯一のフォーラム開催だったのではと感じています。今後、皆様の活動のお役に立てるような研究・開発をこちらでは行っていきたいとの思いを強くしました。

《ワンハンド瀬戸フレンド(代表) 吉岡忠助/香川》
本日は大変貴重な機会をありがとうございました。全ての時間が気付きと学びでいっぱいでも嬉しいひとときでした。ありがとうございました。企画運営大変お疲れ様でございました。まだまだ駆け出しの私たちの団体ですが、貴団体の活動目標・活動分野・活動エリアの詳細の一部を知って、大きな刺激と感心で一杯です。たぶん、まだまだいろんな隠しポケットがあって、環境と地域づくりの分野でも四国でのトップランナーと聞いております。此方こそ、色々ご指導宜しくお願いしたく、引き続きご縁をよろしく願い申し上げます。



海ゴミフォーラム研修風景



地域連携団体との協同海ゴミ清掃活動

しろい環境塾は、環境の悪化が進む白井市などの北総地域(千葉県北部)で、里山の自然や耕作放棄された田畑を再生・保全する事業に取り組むことを目的に2000年に設立されました。豊かな緑や生きものに恵まれた貴重な里山を保全し、次の世代に引き継ぐことで、安らぎのあるまちづくりに貢献することを目指しています。「田んぼの学校」など子どもの環境教育や地域の伝統文化を体験する市民交流などの活動も行っています。



下手賀沼土手ゴミ回収

美しい下手賀沼の景観復活! 2022

◎活動地域 | 千葉県白井市平塚地区
◎助成期間 | 3年目

千葉県北部に位置する手賀沼は、昭和30年代の急激な都市開発により、全国で最も汚れた沼とも呼ばれるほど水質が悪化していました。このプロジェクトでは、手賀沼の水質を改善するため、土手の整備や流域に広がる放置された耕作地の再生などに取り組んでいます。また、生物多様性を維持・向上していくことにより、手賀沼を市民が身近に感じ、子供たちが生き物に触れ合う水辺へと復活させることを目指しています。

実施結果

平塚地域の農業者の高齢化や後継者不足は、防ぎようのない事実である。本団体が取り組む耕作放棄地の解消やゴミの回収・景観植物の植栽による日本の原風景の回復と多様な生きものとのふれあいを目指す活動は、参加する市民に多くの感動と心の和みを与えることができた。また本地域で自然や多様な生きものたちのふれあいの基盤には、健康な水が不可欠であることを感じ取ることができた。市民と地元の住民との協働作業や遊休地の活用、特定外来生物除去活動は、地元農家の農業維持・継続の力になった。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	24回 ▶	22回
活動参加人数	1,200人 ▶	554人
ゴミ回収量	300kg ▶	100kg
保全整備した面積	13,000㎡ ▶	13,000㎡
有害生物の駆除・除去	— ▶	852kg ナガエツルノゲイトウ
環境教育参加人数(のべ人数)	145人 ▶	102人
下手賀沼南堤整備	500m ▶	1,000m



特定外来生物除去作業



下手賀沼水質調査

🔊 活動に関わった方の声

《下手賀沼南土手のクリーンアップ》

土手のゴミ回収や草刈りは2020年度から3年目になるが、当初、不法投棄された粗大ごみの多さに驚いたが、本年は回収量も少なく、湖沼の景観が保たれていることが嬉しい。

《下手賀沼船上観察会と水質検査》

船からの景観は非常に良かった。下手賀沼には多くの水鳥が住んでいることを知ったが、コブハクチョウがこんなに多くいて、それが近くの農家の畑を荒らしていることを知って残念だった。

下手賀沼の水を汚さないように家庭から出る排水にも注意したい。

自然再生と保護区のための基金は、野生生物が生息可能な空間の拡大を通じて、生物多様性への貢献を図ることを目的に2006年に設立されました。原生的な自然の保護のみならず、農耕地など、人と自然の長期にわたる関わりの中で形成されてきた二次的自然を再生・保全することで、多くの生物の命を救い・育む生息地の確保や維持、自然保護区の設置などに取り組んでいます。



放棄水田を掘って池づくり

学びと実践のための谷まるごと棚田の自然再生プロジェクト

◎活動地域 | 奈良県奈良市
◎助成期間 | 3年目

かつては、人が使う中でも生物にも好適な生息地が提供されていた二次的自然は、乾田化や農薬、耕作放棄という形で荒廃が進んでいます。耕作放棄された谷あいの棚田を活用し、かつての二次的自然を再生・保全することで、「谷まるごと」を生き物の楽園へと再生していきます。また、「エコ」「癒し」「ユニバーサルデザイン」等の要素を取り入れ、老若男女に魅力的な環境アクティビティを提供することで、幅広い層の参加者が活動しています。

実施結果

2020年度からコロナ禍となり、ボランティアを広く募ることが困難となった一方、家族単位での野外アクティビティ需要が高まったことからファミリー向けプログラムや家族割などの対策を講じた。その結果、複数のヘビーリピーターからボランティアの申し出があり、プロジェクト推進体制を強化できた。同時に、イベント参加人数は2021年度に過去最高となった。一方、自然再生においてはイノシシの増加による土手崩壊が増加、加えて雨天中止も増加し、新規の湿地化は予定通り達成できなかったものの、地元農家連携プログラムの開発・開催による協力体制が強化でき、外来生物見回り協力や土手修復・築堤のための伝統技術を得ることができた。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	44回 ▶	53回
活動参加人数	300人 ▶	709人
保全整備した面積	8,700㎡ ▶	8,300㎡
有害生物の駆除・除去	— ▶	102匹 アメリカザリガニ、ウシガエル
環境教育参加人数(のべ人数)	250人 ▶	665人



伝統工法による畔づくり(竹柵)



活動により丈夫な畔が完成

🔊 活動に関わった方の声

《参加者》

生き物が好きな子どものためにイベントに参加していたが、魅力的なテーマと内容のため、いつの間にか自分(親)も引き込まれイベントを毎回楽しみにするようになった。

《地域の方》

水田が生物にとってよい場所であることを知り、アメリカザリガニやウシガエルを見つけ次第駆除するようになった。

《地域の方》

地元の水田がそんなに(生物にとって)魅力的な場所になっていることを知らなかった。確かに水抜きの際にはたくさんの生き物を見る。自分の水田を生物調査に使ってもらって構わない。

クリアウォータープロジェクトは、子どもたちが目を輝かせて飛び込んでいくような川、海、湖を未来の世代に、をビジョンに、豊かな水辺環境と水辺文化を創出することを目指して、2013年に設立されました。市民が協力して水辺を観察・記録・共有することで問題点を見える化し、環境改善を図るためのポータルサイトの開発や、身近な川遊びスポットや楽しみ方等の情報を発信することで川ファンを増やす取り組みなどを行っています。



生き物観察会

デジタル生き物図鑑制作プロジェクト

◎活動地域 | 愛知県豊田市
◎助成期間 | 3年目



豊田市を流れる岩本川には、絶滅危惧種に指定されるドジョウが見られる一方で、外来種の数も増えてきています。このプロジェクトでは、より多くの人々に自然をもっと身近に感じてもらうため、岩本川の希少生物や外来種を毎年調査し、教材としてまとめ、環境教育を実施しています。また、外来種がいなかった頃の水環境を取り戻すために、地域住民や小学生と共に外来種駆除を行っています。自然と地域住民、団体、行政を繋げることで、河川環境を守る人材の育成と希少生物を維持できる水環境の構築を図っていきます。

実施結果

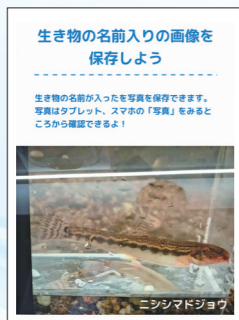
地域住民と子どもたちと一緒にいった岩本川に生息する生き物調査の成果として、『岩本川生き物図鑑』を作成しました。しかし、コロナ禍でタブレットを用いた教育の需要が高まったことから、PDF化しただけでなく、AIによる自動魚種判定機能を追加したアプリを開発しました。これにより、より楽しみながら学習できる教材となりました。在来ドジョウに関しては、おそらく本アプリが唯一の3種類判別可能なAIを搭載していると思われます。この「環境×デジタル」の取り組みは、私たちの活動拠点である豊田市でも新しい環境教育の試みとして注目され、取材を受けました。今後は、地域の小学校や子ども会での普及・活用を積極的に推進し、川に対する興味を引き起こすきっかけとしていきたいと考えています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	8回	6回
活動参加人数	—	22人
アプリ作成	1	1



デジタル図鑑①



デジタル図鑑②



親子で検体採取



カワムツ

見つかった検体

活動に関わった方の声

《参加者 30代(女性)》

活動が実施された河川の近くに祖父母の家があり、この河川のことは知っていたが、生き物が観察できたり、川遊びができる河川とは知らなかった。また別の機会に来た時にはぜひ河川でも遊びたい。

《参加者 小学4年生(女性)》

知らない生き物だけど、判定のパーセントとかがでて楽しかった。生き物がいそうな場所なども図鑑を通してわかった。

白神山地を守る会は、白神山地のブナの森の復元・再生活動を実施する団体として、白神山地が世界遺産登録された1993年に設立されました。白神山地では、世界遺産に登録される前にブナの伐採があり、現在もかなりの箇所で木々が失われた状態にあります。白神山地の自然遺産を次世代に継承していくため、ブナなどの広葉樹の苗木づくりを行い、植林活動に取り組んでいます。また、ガイドや環境教育を実施し、自然保全活動への理解を促しています。



第12回陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭活動風景

陸奥湾の高温障害から環境を守る植林・普及活動

◎活動地域 | 青森県東津軽郡平内町
◎助成期間 | 3年目



2010年の猛暑による海水温の上昇によって陸奥湾の重要な海産物であるホタテが大量死したことを発端に、陸奥湾を高温障害から守る為の植樹活動に取り組んでいます。陸奥湾周辺の山に広葉樹を植林することによって、山に蓄えられた水が沢や川を伝わり、海に流れ込み、陸奥湾の海水温の低下と浄化が進みます。また、八甲田山の水系が育む豊かな海と陸奥湾の環境保全の意義を環境教育やセミナーを通じて訴求していきます。

実施結果

コロナ禍の3年間にも関わらず第10回～第12回の海と山をつなぐ植樹祭が無事に終了しました。2022年の植樹祭には役員を含む150人が参加しました。また、秋にはミズナラとブナの種の採取と植え付けが行われ、1万個の種を植えることができました。3年間、新しい植林地での植樹祭が展開され、6年先までの植林用の苗木も確保されたことは大きな成果です。9月末には経団連自然保護協議会の国内視察団が訪れ、平内町長とホタテ漁業組合の参事さんとの意見交換が行われ、さらに植林地を視察し、植林活動も実施されました。3月には、経団連会館にてこの事業のプレゼンテーションを行い、SDGs活動の展開を報告しました。

〈定量成果〉

	計画値	結果	
助成対象事業の活動回数	43回	63回	
活動参加人数	250人	430人	
ゴミ回収量	80kg	100kg	
植樹本数	150本	230本	ブナ、イタヤカエデ、クヌギ、ミズナラ
保全整備した面積	10,000㎡	10,000㎡	
環境教育参加人数(のべ人数)	80人	92人	



ブナの種



秋の広葉樹植木の光景

活動に関わった方の声

私達の植樹祭は、高校生の自主参加が多く、特に青森市内の高校生のボランティア活動としての参加が多く、皆さんからは「とても楽しかった」「植林の大切さを知った」「具体的なSDGs活動をもっとしたい」という意見が多く寄せられた。2年間参加した高校生もいた。

これまでの助成先団体一覧(国内)

	No.	活動地	団体名	
北海道	1	北海道	ばんばんばんがきん	
	2	北海道	NPO法人 山のない北村の輝き	
	3	北海道	NPO法人 森をたてようネットワーク	
	4	北海道	NPO法人 カラカネイトンポを守る会あいあい自然ネットワーク	
東北	5	青森	小川原湖自然楽校	
	6	青森	NPO法人 白神山地を守る会	
	7	岩手	NPO法人 わが流域環境ネット	
	8	岩手	NPO法人 紫波みらい研究所(代表団体)	
	9	宮城	梅田川せせらぎ緑道を考える会	
	10	宮城	NPO法人 川崎町の資源をいかす会	
	11	宮城	NPO法人 杜の都仙台ナショナルトラスト	
	12	宮城	カワラバン	
	13	宮城	宮城県淡水魚類研究会	
	14	宮城	NPO法人 リアスの森応援隊	
	15	山形	鮭川村自然保護委員会	
	16	山形	庄内自然博物館構想推進協議会	
	関東	17	茨城	NPO法人 Water Doors
		18	茨城	御前山ダム環境センター
		19	茨城	NPO環～WA
		20	栃木	わたらせ未来基金
21		栃木	NPO法人 オオタカ保護基金	
22		群馬	NPO法人 緑の家学校	
23		群馬	さなざわ里山だんだんの会	
24		埼玉	NPO法人 比企自然学校	
25		千葉	NPO法人 ふるさと生きがいづくり	
26		千葉	NPO法人 印旛沼広域環境研究会	
27		千葉	NPO法人 印旛野菜いかだの会	
28		千葉	八千代市ほたるの里づくり実行委員会	
29		千葉	NPO法人 しるい環境塾	
30		千葉	ほたる野を守るNORAの会	
31		千葉	NPO法人 森のライフスタイル研究所	
32		東京	NPO法人 森のライフスタイル研究所	
33		東京	ぜんかんれん	
34		東京	白子川源流・水辺の会	
35		東京	DEXTE-K	
36		東京	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	
37		東京	NPO法人 おちかわの里	
38		神奈川	浜っ子トラストチーム	
39		神奈川	NPO法人 ヨコハマ倉造空間	
40		神奈川	ほのぼのビーチ茅ヶ崎	
41		神奈川	NPO法人 おさかなポストの会	
42		神奈川	NPO法人 海の森・山の森事務局	
43		神奈川	一般社団法人 サーフライダーファウンデーションジャパン	
44		神奈川	NPO法人 小網代野外活動調整会議	
45		神奈川	NPO法人 暮らし・つながる森里川海	
中部		46	新潟	NPO法人 ねっとわーく福島潟
		47	新潟	高根フロンティアクラブ
		48	新潟	NPO法人 新潟水辺の会
		49	富山	福光ふるさとの森を再生する会
		50	富山	金山里山の会

	No.	活動地	団体名
中部	51	石川	金沢エコライフ事業実行委員会
	52	福井	アマモサポーターズ
	53	山梨	NPO法人 えがおつなげて
	54	山梨	NPO法人 ゼロファクトリー
	55	長野	ステップアップゼミ
	56	岐阜	NPO法人 MY
	57	岐阜	大富山を愛する会
	58	静岡	NPO法人 浜松NPOネットワークセンター
	59	静岡	NPO法人 はるの山の楽校
	60	愛知	ネイチャークラブ東海
近畿	61	愛知	虹のとびら
	62	愛知	一般社団法人 ClearWaterProject
	63	三重	一般社団法人 海っ子の森
	64	滋賀	NPO法人 旅するおさかなサポーター
	65	滋賀	NPO法人 夢工房
	66	滋賀	清水川湧遊会
	67	滋賀	たかしま有機農法研究会
	68	滋賀	神山区いい顔づくり委員会
	69	滋賀	NPO法人 家棟川流域観光船
	70	京都	水源の里連絡協議会
中国	71	京都	NPO法人 プロジェクト保津川
	72	京都	川と海つながり共創プロジェクト
	73	京都	ほたる祭改善プロジェクト委員会
	74	大阪	NPO法人 花だんごネットワーク
	75	大阪	NPO法人 ふくてつく
	76	大阪	NPO法人 環境教育技術振興会
	77	大阪	公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会
	78	兵庫	「峠池」を考える会
	79	兵庫	武庫川の治水を考える連絡協議会
	80	兵庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project
	81	兵庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会
	82	兵庫	NPO法人 アンビシャス コーポレーション
	83	奈良	景観ボランティア明日香
	84	奈良	一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金
	85	和歌山	NPO法人 ゴミング・ゴミ拾いネットワーク
四国	86	鳥取	山王さん周辺活性化協議会
	87	島根	NPO法人 飯梨川再生ネット
	88	島根	千鳥のお堀を学ぶ会
	89	広島	酒屋地区自治会連合会
	90	広島	大羽谷川流域の環境を考える会
	91	広島	NPO法人 もりメイト倶楽部Hiroshima
	92	広島	京橋川かわいあい あしがるクラブ
	93	山口	小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会
	94	徳島	NPO法人 川塾
	95	徳島	NPO法人 環境とくしまネットワーク
	96	愛媛	宮前川クリーンネット
	97	愛媛	エコ・ライフ夢幻村
	98	愛媛	久保・肱川源流を想う会
	99	高知	(社)西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
	100	高知	こうち森林救援隊

これまでの助成先団体一覧(海外)

	No.	活動地	団体名
海外	1	中国	NPO法人 環境資源保全研究会
	2	インドネシア	日本インドネシアNGOネットワーク
	3	バングラデシュ	NPO法人 日本下水文化研究会
	4	ベトナム	社団法人 国際海洋科学技術協会
	5	ミャンマー	認定NPO法人 ブリッジ エーシア ジャパン
	6	中国	ひふみや(自然農法)
	7	ネパール	NPO法人 ミランクラブジャパン
	8	フィリピン	NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
	9	フィリピン	公益社団法人 アジア協会アジア友の会
	10	ケニア	NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
	11	フィリピン	NPO法人 イカオ・アコ
海外	12	カンボジア	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia
	13	モザンビーク	一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会
	14	ネパール	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン
	15	東ティモール	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン
	16	インド	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン
	17	ミャンマー	認定NPO法人 アジアチャイルドサポート
	18	インド	認定NPO法人 日本水フォーラム
	19	インド	Deepak Foundation
	20	ベトナム	公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン
	21	ベトナム	公益財団法人 国際開発救援財団
	22	スーダン	NPO法人 ロシナンテス
	23	スーダン	NPO法人 ホープフル・タッチ
	24	フィリピン	NPO法人 ハロハロ
	25	パキスタン イスラム	認定NPO法人 難民を助ける会
	26	インド	認定NPO法人 ICA文化事業協会
	27	ケニア	認定NPO法人 道普請人
	28	ウガンダ	認定NPO法人 道普請人
	29	ウガンダ	NPO法人 コンフロントワールド
	30	インドネシア	公益財団法人 オイスカ
	31	エチオピア	認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構
	32	エスワティニ	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン

これまでの助成状況

回	期間	金額	団体数
第1回	2005年 10月～2006年 9月	1,090万円	12
第2回	2006年 10月～2007年 9月	1,560万円	12
第3回	2007年 10月～2010年 9月	8,051万円	29
第4回	2008年 10月～2009年 9月	1,200万円	16
第5回	2009年 10月～2010年 9月	1,102万円	18
第6回	2010年 10月～2011年 9月	751万円	10
第7回	2012年 4月～2013年 3月	980万円	16
第8回	2013年 4月～2014年 3月	1,007万円	20
第9回	2014年 4月～2015年 3月	1,300万円	25

※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。

回	期間	金額	団体数
第10回	2015年 4月～2016年 3月	1,430万円	22
第11回	2016年 4月～2017年 3月	1,556万円	24
第12回	2017年 4月～2020年 3月	9,531万円	35
第13回	2018年 4月～2021年 3月	1,752万円	10
第14回	2019年 4月～2022年 3月	2,465万円	10
第15回	2020年 4月～2023年 3月	2,656万円	10
第16回	2021年 4月～2024年 3月	2,747万円	12
第17回	2022年 4月～2025年 3月	2,478万円	11

累計 4億1,656万円 292団体

あしたを、ちがう「まいにち」に。
TOTO

TOTO株式会社

(TOTO水環境基金事務局)

<https://jp.toto.com/company/csr/mizukikin/>



(2023年9月発行)